

杉コレ 2011 審査員 コメント



南雲勝志氏
南雲デザイン事務所代表

昨年の杉コレ西都のスローガンは頑張ろう、宮崎！そして今年は予算が限られる中、口蹄疫を乗り越え、日向の杉コレを何とか盛り上げようとスタートする直前に東北大震災が起きた。岸本実行委員長始め主催者は大いに悩んだ。しかしこういう時こそ杉コレの楽しさで日本を元気にしようではないか、そんな理由で開催に踏み切った。杉コレ設立者の海野さんは人賞作品を東北に差し上げることは出来ないだろうか？などと話していた。例年より一ヶ月遅れのスタートだった。二次審査を省略しての本審査当日、時間のない中にも入賞作品がズラリと並んだ。やってみるとさすが上手い仕切りであった。7回目となる今年は杉デザインの競演というよりは優しく温かく人の心をつなぐ作品が多かった。中でも東北の子供たちの思いをデザインした子供杉コレグランプリ作品は人々の心をつなげた。それを東北に送るプロジェクトが発足する。悩んだがやってみると良かった。そして初心を貫いた杉コレであった。



岩田正晴氏
株式会社内田洋行取締役執行役員
オフィス事業本部長

日向市にて開催されました杉コレレクシオン2011が今年も無事成功に終わりましたこと、関係者の皆様のご努力に敬意を表するとともに、お慶び申し上げます。当社としてはこの杉コレを後援させていただき5年目となりますが、私個人としては初めて、しかも重責の審査員として参加させていただきました。初めて日向市駅に降り立ち、高架駅にも関わらず木造を思わせる雄大な駅舎と、そこを中心にした広がる広場の賑やかな風景は、産業界と行政、市民、学校が世代と立場を超え自然と交流されている理想的なコミュニケーションの姿に映ったことがまず印象的でした。

さて、杉コレの審査ですが、今年は特に夢や絆を想起させ、心温まる作品が多く、プレゼンにおいても作者の皆さんから熱いメッセージを通じ多くの感動を頂き、素晴らしいイベントであったと思います。当社もオフィスや学校等の空間設計を通じて、国産材活用による環境貢献を推進してきておりますが、木という素材の温もりとデザインの重要性を再認識し、そしてそれらに関わる方々との出会いとその想いを実感し、当社の事業を通じてその想いに応えていきたいと思っています。次回の杉コレでは更に当社の参加者も増やしたいですね。この度いろいろお世話になりました、宮崎県木材需要拡大推進会議、宮崎県木青会、実行委員会の皆様、そして多くの関係者の皆様に、心より御礼申し上げます。



加藤裕彦氏
宮崎県環境森林部長

思わず「ふふふ」となる作品の数々でした。今回のテーマは「座」ということで、私たちの生活に密接に関係するものですし、直に人と木が接するテーマです。木のぬくもりは体温を持つ人間だからこそ感じることができるでしょう。そして今回は、木の温かさ以上に人の心の温かさを感じさせるものになりました。

「お尻合いイス」「ひ座すき」「肩車」「低スギあぐら椅子」だこのいす」などと、作品の奥に作者のみなさんの心の温かさを感ずることができました。「絆」という言葉があらためて思い出された2011年でしたが、木のイスを通じて、日常の人々との絆というものが感じさせられました。応募者のみなさんの発想やデザインに加えて制作者の方々の技術、創造性も高く評価したいと思います。日向市駅の杉の庇の下で、スギ作品群に出会えたのも印象的でした。来年も素敵な杉コレが開催されることを楽しみにしています。



飯村豊氏
宮崎県木材利用技術センター
所長

木材利用技術センターでは、スギ森林資源の成熟化に伴い生産量が増加してい



黒木健二氏
日向市長

「杉コレレクシオン2011」が、全国有数の杉生産地の耳川流域にある日向市、そして、この流域の香り高い木材を利用して、市民をはじめ多くの関係者のコラボレーションにより建設された「日向市駅」で盛大に開催されたことは、大変意義深く、感謝申し上げます。今回の「杉コレレクシオン2011」の製作テーマは「座」でしたが、多数の応募をいただき、一次審査を勝ち進んだ、一般部門、

子供部門のそれぞれ最終プレゼンテーションが当日行われ審査をさせていただきました。どの作品も杉の持ち味を充分生かした素晴らしいもので、審査には大変苦労をいたしました。今回は一般部門では、宮崎市の山内成津子さんの「お尻合いイス」、そして子供部門では、日向市立日知屋東小学校三年生の安田圭沙さんの「だっこのいす」がそれぞれグランプリを受賞しました。山内さんの作品は、隣に座った見ず知らずの人と、自然と会話が弾むような、人の温かさを感じられるものでした。又安田さんの作品は、東日本大震災で両親とはぐれ、寂しい思いをしている子供たちが、お父さんやお母さんにぎゅつとだっこされているような気分になれる椅子になっており、特にそのプレゼンテーションは、木の温もりや両親との肌の温もりを併せて感じさせるような、私達の胸を打つ大変素晴らしいものでした。

「杉コレレクシオン2011」が、全国有数の杉生産地の耳川流域にある日向市、そして、この流域の香り高い木材を利用して、市民をはじめ多くの関係者のコラボレーションにより建設された「日向市駅」で盛大に開催されたことは、大変意義深く、感謝申し上げます。今回の「杉コレレクシオン2011」の製作テーマは「座」でしたが、多数の応募をいただき、一次審査を勝ち進んだ、一般部門、

そのようなことから、杉コレレクシオンの審査委員長である内藤廣さんから、このような純粋な想いは、被災された方々の勇気の源になるとのお話があり、被災地に安田さん、さらにその想いと作品を届けようと思案され、『だっこのいす』を東北に送るプロジェクトが後日創設されました。私も賛同人の一人といたしまして大変嬉しく、感激いたしますとともに、このプロジェクトが成功することを心からお祈りしているところであります。最後になりましたが、今回の杉コレ開催にご尽力されました皆様に対しまして感謝を申し上げますとともに、このことにより、今後ますます木材の需要拡大が図られることをご祈念申し上げます。



津高守氏
九州旅客鉄道株式会社
鉄道事業本部 施設部長

杉コレは昨年の日南、昨年の西都と2年続けて見物をしたことがあるのみで、まさか審査員の役目が回って来るとは思ってもしなかった。今回のお話を伺ったときには正直驚きましたが、スギダラ活動を業務の中心に据える者としてこのような光栄は無いと考え参加させていただきました。

今年は模型を作って審査する2次審査は無かったので、製作者の皆さんは応募者との調整がいつも増して大変だったことと思います。その割にはどの作品も応募者の意図をよく反映できていたと思いますし、グランプリを受賞したお尻合いイスをはじめとする幾つかの作品は主婦の方や学生さんがデザインをしたもので、誰でも参加できる杉コレの主旨に大いにマッチしたものだと思っています。

また、会場にいた全員が感じたことでもあります。今回は子ども杉コレの作品が2つとも秀逸だったと思います。特にグランプリを受賞した安田圭沙さんのプレゼンには目頭が熱くなりました。彼女の真摯な思いが被災地に届くことを願ってやみません。最後になりましたが、主催者であられる宮崎県木青会連合会の皆様に感謝申し上げますとともに、私共も引き続き「杉使い」「木使い」を積極的にこなしていくことをお願いして審査員のコメントとさせていただきます。



丸山康幸氏
フェニックス・シーガイアリゾート
取締役会長

フェニックス・シーガイアリゾートでは、宮崎の良質な地域資源を県内自治体と一緒に発信し、多くのゲストに宮崎の良さを楽しんで頂く活動を推進しています。その一環として、今年度より「シーガイア・MOVE IT! アワード」の設立を通じて、杉コレを後援させて頂くことになりました。

今回初めて参加させて頂き、デザインを応募された方の考えや想いに感心するとともに、杉コレが、デッサンをもとに実物大に作り上げる木青会の方々、審査員として参加される日本を代表する建築家やデザイナーの方々、以前から杉コレを後援・応援されている実業界・行政の方々など背景の異なる多くの皆さんに支えられた、素晴らしいイベントであると感銘を受けました。

フェニックス・シーガイア・リゾートはMOVE IT! プロジェクトとして、『カラダ、動かせ。ココロ、動かせ。アタマ、動かせ。』をテーマに、シーガイアを訪れたゲストにカラダ、ココロ、アタマを動かして、より元気になっていただけるような、多彩なプログラムの開発・充実を図っています。私と杉コレとの出会いは「杉コレレクシオン2009 in 日南」の入賞作品である、「森のおっぱい海へゆく」を拝見したことです。これはまさにココロ動かされる出来事でした。この作品は現在、シーガイアの宿泊施設であるラゲゼ一ツ葉/コテージ・ヒ



内田みえ氏
建築・インテリア専門誌「コンフォルト」エディター

ムカ内に設置され、県内外からのゲストに親しまれています。私どもは、今後も継続的に「ココロ動かす」杉コレを後援させて頂きたいと考えています。

これまで取材する側として関わらせてもらった杉コレに、今回は審査員として参加させて頂きました。気持ちのいい緊張感を持つ最終審査を楽しむことができ、参加できたことに感謝しています。今回は会場が駅前広場ということにより多くの人々の目に触れたことはよかったですね。過去の作品展示もよかったです。作品もバリエーションがあつたと思います。作品もバリエーションがあつたと思います。作品もバリエーションがあつたと思います。

今年は何んといつても東日本大震災のことが大きく影響しましたね。しかし、それをあのようなカタチで、しかも子ども部



中川和也氏
宮崎県木青壮年会連合会
会長

今回、「杉コレレクシオン2011 in 日向」が無事開催できました事に、心より感謝申し上げます。今年も当初より開催が危ぶまれましたが、資金面、開催日時、審査員の先生方のスケジュールなど調整に難航していましたが、そんな折、3月11日東北大地震が発生しました。見たこともない映像が、次から次と放映され、甚大な被害と被災者、こんな状況では今年は無理かなと感じました。しかし少しずつ変化がありました。「復興」が叫ばれるようになり、多方面からの支援の輪が広がりました。そこで私たちも、何かをしなければいけないと感じました。でも

杉コレの準備は遅れ、諸問題も解決せず、手探りの時間が過ぎていきました。しかし状況は少しずつ好転し宮崎県産材流通促進機構、内田洋行、建築雑誌コンフォルト、フェニックス・リゾート・シーガイア、JR九州など関係者の皆様のご協力のもと日向市駅前「木もれ日ステージ」で執り行うことが出来ました。今年も一般部門が全国から100点余り、子ども部門も数十点集まりました。一次審査を内藤委員長事務所をお借りして、行いました。選ばれた一般部門8作品、子ども2作品、計10作品を実物大に製作し、11月12日開催できました。当日のプレゼンテーションも素晴らしいと、心に残る大会となりました。今後も杉コレレクシオンが継続していただけるよう関係者の皆様のご支援と、ご協力をお願いします。て来年の成功をお祈りしたいと思います。【感謝】



審査員の方々にサインしていただいた、杉コレレクシオン2011記念のサインボード。